

野研びより

植物編 6号
野外生物生態調査研究部 植物班
2016年11月

シラカシ（白樺） *Quercus myrsinaefolia*

ブナ目 ブナ科 コナラ属

分布：本州福島・新潟県以西～九州、朝鮮（済州島）、中国¹⁾

樹高：20m²⁾

樹皮：黒色²⁾

果実：堅果で下部は9層ほど縞状の殻斗になっている。10月頃結実²⁾。

この時期、学内でもいくつかの場所でどんぐりを目にすることができる。そのどんぐりに、いくつかの種類があることはご存知だろうか。日本でどんぐりをつける樹種は22種あり、コナラ属、マテバシイ属、シイ属、クリ属、ブナ属に分けられる。コナラ属は最大派閥の15種を占め、殻斗（どんぐりの帽子の部分）が鱗状になっているか輪状になっているかにより、コナラ亜属とアカガシ亜属にさらに分けられる³⁾。今回は、その中でも学内で最も容易に見ることができるアカガシ亜属のシラカシについて取り上げた。

シラカシは、大きいものだと高さ20mになる常緑高木である⁴⁾。照葉樹林で自生しているのが見られるが、関東地方など北の地域に多く、本州南岸より南では少ない²⁾。山野に生えるが、標高の低い部分～平野部にかけて多く見られる⁴⁾。腐葉質の多い肥沃な土壌を選んで生育する。西日本では、川沿いにおいて多くみられる⁴⁾。

葉は、長楕円状披針形で先が鋭く尖り⁵⁾、葉の表面（図3）は光沢のある緑色、裏面（図4）は灰緑色⁶⁾、雌雄同株である⁵⁾。春に、前年の枝から穂のように垂れ下げる雄花から花粉を飛ばし、新枝に作られた小さな雌花で受



© 2016 YAKEN

図1. 学内のシラカシ (2016/11/06
木花キャンパス学生食堂前にて撮影)。

粉するという仕組みとなっている。堅果（ドングリ）（図2）は広楕円形で、殻斗（どんぐりの帽子）は浅い椀形となっている⁵⁾。



図2. 枝についた状態の堅果（図1と同じ日、同木にて撮影）



図3. 葉の表面（図1と同じ日、同木より採取）



図4. 葉の裏面（図1と同じ日、同木より採取）

シラカシの和名は、アカガシと比べて材が白色であることに由来している⁷⁾。また、熊本ではヤナギガシ、シロカシ、ハナガガシなどと呼ばれることがある⁵⁾。属名はケルト語の「良質な Quer」+「材木 cuez」、種小名は「ツルアカノミ属のような葉の」という意味である。シラカシは、カシ類の中でも材が最も良質であり、船舶建造、機械の木部、農具などに利用される。また、関東地方を中心に生垣や防風林として利用される。

引用文献

1. 林弥栄 (1985) 日本の樹木 (山溪カラー名鑑), 山と渓谷社
2. シラカシ - Wikipedia
<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B7%E3%83%A9%E3%82%AB%E3%82%B7>
3. 森廣信子 (2010) どんぐりの戦略—森の生き物たちをあやつる樹木, ハ坂書房
4. 永田芳男 (2006) 樹木秋冬編 (山溪フィールドブックス), 山と渓谷社
5. 木村陽二郎/監修, 植物文化研究会/編集 (1996) 図説 花と樹の大事典, 柏書房
6. 三上常夫・川原田邦彦・吉澤信行/著作, 日本植木協会/編集 (2009) 鑑定図鑑 日本の樹木一枝・葉で見分ける 540 種, 柏書房
7. 徳永桂子 (2004) 日本どんぐり大図鑑, 偕成社